



オシラサマのまつりに集まった各家のオシラサマ（弘前市乳井）

青森県の特徴的な民間信仰の一つに、家でまつられるオシラサマの信仰がある。その祭祀（さいし）に大きな役目を担ったイタコ（オシラ祭文は、長者の娘と飼馬との悲恋の物語で、馬と娘が天に召され生

まれ変わって蚕（かいこ）となったと語られる。オシラサマは養蚕の神様とする地域もあるが、青森県では家の守り神であり、農神、火を防ぐ神、厄を払う神、吉凶を占う神などとされ、養蚕とは関係のない家の神

として長らく信仰されてきた。ほかにも、子どもの好きな神、移動したり飛び回ったり出歩くのが好きな神、粗末にした者をとがめる神などの伝承も多い。オシラサマは長さが30cmほどの男女（あるいは馬と娘）1対の木偶で、オセンドクと呼ばれる布切れが幾重にもかぶせられ、「オシ

マと呼ばれる民間宗教者）を呼び親族や近所の女性が集まったり、集落のオシラサマをまつる家々が共同でイタコを呼んだり、あるいは弘前市の久渡寺や平川市（旧尾上町）の蓮乗院で行われるオシラ講に参加したりと、祭祀の方法は様々である。分布を見ると、青森県内ほぼ全域のほか、岩手、秋田、宮城県ではオシラガミ・オシラボトケなどともいい、山形県ではオコナイサマ、福島県ではオシンメサマなど、名称は違えど類似の信仰があることが知られ、北海道の西部にも若干のオシラサマが見られる。オシラサマ信仰の起源はかなり古く、青森県でもまつり始めたのが何時のことかわからないほど、古くからまつられている旧家のオシラサマは多い。その一方で、イタコやカミサマのお告げによって授かったことを知り、まつり始めたとい

（県民生活文化課  
県史編さんグループ 主幹）

## 青森県の

### オシラサマ信仰

清野 耕司

ほぼ全域のほか、岩手、秋田、宮城県ではオシラガミ・オシラボトケなどともいい、山形県ではオコナイサマ、福島県ではオシンメサマなど、名称は違えど類似の信仰があることが知られ、北海道の西部にも若干のオシラサマが見られる。オシラサマ信仰の起源はかなり古く、青森県でもまつり始めたのが何時のことかわからないほど、古くからまつられている旧家のオシラサマは多い。その一方で、イタコやカミサマのお告げによって授かったことを知り、まつり始めたとい

う比較的新しいオシラサマもある。民俗学の祖といわれる柳田国男は、かつては、家が神をまつる主体であった時代があり、毎年春の初めに行う家の神のまつりに、祭主である主婦が両手に持って、神を迎えるために用いた一種の木の採り物（祭祀で神職が手に持つ道具のこと）が変化したものがオシラサマであろうとしている。その形態や女性にまつられる点からも説得力があるものの、残念ながら起源論として確定したものではない。青森県のオシラサマ信仰は、かつて広く分布し隆盛をさわめたが、現在ではまつる人、あるいは家そのものがなくなり、自然と姿を消していったという話も聞かれる。一方で、写真のよう